

高松ゼミナール卒業論文

「笑いについての多角的考察」

100-127 金子尚人

目次

第1章	笑いのトリック	(1～5頁)
第2章	ジョークと意外性	(6頁)
第3章	笑いの分類	(7～10頁)
第4章	精神生理学的考察	(11～13頁)
第5章	吉本興業	(14～16頁)

第1章 笑いのトリック

(1) 先入観の構造

ジョークはミステリー、マジックと密接な関係にある。まずは「先入観」について触れる。「先入観」の要点は以下の4つである。

1. 習慣や日常見慣れているものが、価値判断を超えて先入観を形づくり、観念を支配する。
2. 先入観はその人かぎりの尺度をつくり、思考をワクのなかにはめこむ。
3. 大きすぎるもの、身近にあるものはかえって見えない。
4. 見落とされた共通性、法則性は柔軟な思考によって発見される。

【例話1】

夜、ある町の外科医のところへ大怪我をした男が治療を受けにきた。住所を聞くと隣の町からきたという。「隣の町なら、有名な外科医がいるのに、どうしてわざわざここまで来たんです？」

答えは「私がお医者さんなんだ」

(2) だまされやすさの研究

【例話2】

若いお母さんが幼い男の子を連れて町へ出かける途中、交通事故の現場に出くわした。男の子はへしゃげた自動車を飽きずに見ている。母親はその子の手を引っ張り、「そんなものを見てないで、早くあっちへいきましょう。」それからつづけて「あっちの事故のほうが大きいわ。」

このジョークがジョークとして成立するのは、母親の言葉の前段を、交通事故に見入っている子どもを早く連れていこうとしていると聞き手が受け取るからだ。聞き手は結末を知って心に軽いショックを受ける。それは、してやられたという愉快的落下感とでもいったものである。「オチ」という言葉はそういう感覚を端的に表現したものであろう。人間の心理は簡単に間違った方向に導かれ、それに気付いた時の軽い心理的衝撃が笑いを呼ぶ。そしてここでの要点は以下の2点である。

1. 余分な情報が単純な真相を覆い隠すことがある。複雑に見せかけた情報は余分なものとして選別する方法がある。
2. 特徴的で、より関心のある方向に意識は逸れる。逸らされた意識は真相を見落とす。

(3) 考えオチの構造

【例話3】

父 「(中学生の息子に) おまえの成績はクラスで何番だ？」

息子 「どうしてそんなことを聞くの。」

父 「おまえのクラスの人数が知りたいんだ。」

このジョークを分解すると、

- 1 成績がビリであれば、生徒数と成績の序列は一致する。
- 2 息子の成績はビリである。
- 3 息子の成績の序列を聞けば人数がわかる。

1の前提は周知のこととして、息子の成績はビリだというおかしさを含む最も肝要な部分を隠し、それを聞き手の推理に任せている。「おまえの成績はビリだろう」と直截にいつてはさほどおかしくないことも、それを聞き手の推理にゆだね、それを思いつかせるよう構成することによって有効なジョークに仕立てることができる。考えオチとは、話が本来持っている笑いを、聞き手の推理に任せることによって補強する方法である。

(4) 似ることの力

①地口とダブル・ミーニング

- ・ひとりの女性がエレベーターを待っている。この人は上へ行くのか、下へ行くのか。
- ・「マイ・ファーザー・イズ・マイ・マザー」を訳せ。

上のような駄洒落は単純な音の一致によってもともと別の言葉を結びつける言語遊戯で地口と呼ばれる。これに対して同一の言葉が2通りの意味を持つ場合をダブル・ミーニングという。代表的な例に「結構です」という言葉がある。「結構です」は「必要ありません」と否定の意味にも使えば、「よろしゅうございます」という肯定の意味にも用いる。もちろん、抑揚や前後の言葉からどちらの意味に使われているか汲み取ることはできるが、間違えられる場合も無いではない。「待ってました」というのは芸人などが舞台に立った時の客席の掛け声である。しかし、落語を一席終わって高座で演者が頭を下げた時、この声を掛けたとすると、意味は正反対になる。文字で表現する場合もこの種の多義性はよくついてまわる。「日中」、「三分」、「下手」・・・など。

問題の正解は「上がる (a girl)」と「私の父はワガママ (我がママ)」。

②論理としての洒落

車のナンバーや四号棟の無い病院など日本には地口があちこちに生きつづけている。

- ・ 病気見舞いに鉢植えの植物
- ・ 閉会のお開き

洒落はこうして論理を代用し、素朴な信仰に昇華する。音韻の一致はころよく人の耳をとらえ、論理、客観性、妥当性を飛び越え、人を説得する。それは、ある人にとっては論理そのものなのである。

(5) しゃれのひろがり

①語呂合わせによる造語

類似への関心がさまざまな形となって文化的なひろがりを見せている。そして、単純な音や形の一致や類似は強く人の関心をとらえ、遊びを離れて学問の領域にも及んでいる場合がある。クラブを「倶楽部」、カタログを「型録」、インプレッションを「印象」とした造語は語呂合わせによっている。

- ・ 名は顧問(common)だが共同の経営者
- ・ 香水をふれば(flavor)漂ういい香り
- ・ 土地の人もめったに見れじ(mirage)蜃気楼

②外国語と日本語

ペルシャ語でスイカのことを「ヘンダワネ」といい、オランダには「スケベニンゲン」という有名な保養地がある。こういう言葉にたいいてい人は興味を抱く。意味はかけ離れているが、日本語として通じる言葉になっているからである。ギリシャ語で料理店を「タベルナ」という、といえはっそうの関心を示す。料理店と食べるなという言葉の関連性がより深いからである。そして、外国語と日本語が発音でも意味でもたまたま一致した場合、最高度の関心を見せる。イワシはロシア語で「イワシ」、老婆はブルガリア語で「ババ」、固いはトルコ語で「カティ」などがあげられる。

③似ることへの社会的関心

安田徳太郎は日本語の祖語をインド北部のレプチャ語であるとし、大野晋が日本語のタミル語起源説を唱えたのは20年あまり前のことである。寺田寅彦は2種類の言語が偶然一致する確立を統計的に研究し、ざっと3%と試算している。この数字に従えば、日本語と外国語の単語が300や500似ていたとしても少しも異とするに足りないことになる。

(6) 逆に見る

【例話4】

あるホテルのボーイが、泊り客からホテルのバーはいつ開けるか問い合わせの電話を受けた。「午前十時でございます。」一時間後、また同じ客がバーはいつ開けるか電話で尋ねてくる。返事は同じ。二時間後、また同じ電話がかかった。ボーイは我慢の限界に達し、「十

時までお客様をバーにお入れすることはできません！」すると電話の声が、「バーへ入る？おれは出たいんだ。」

【例話5】

妻「あなたァ。手持ちの現金が足りないわ。」

夫「銀行が閉まるまで待ってくれ。」

妻「じゃあ、＜自動引き出し機＞を磨いて、弾を込めておきますからね。」

銀行強盗の夫婦である。

「現金が足りない」と来れば、「銀行が開くまで待て」というはずなのに、「閉まるまで待て」と言う。この意外さに、「磨いて弾を込める」という意外さが重なったところで、銀行強盗だと解決がつく。

【例話6】

あるアパートに空き室があり、管理人室の前に入居者募集の貼り紙がしてある。「ただし、子どものある方はお断り」という条件になっている。アパートの管理人室に男の子を連れてきた婦人が来たので、管理人が、「貼り紙をよく見ましたか。子どものある方はお断りと書いてあるでしょう。」というと、男の子がいう。「ぼくには子どもはありません。親がいるだけです。」

大きなものと小さなものが結合されている場合、常識では「大きなものに小さなものが付属している」と見る。しかし、ユーモア感覚はこの常識的な大小の関係を逆転させ、小に付属する大という見方をする。

「より速く、より高く」というのはオリンピックの合言葉である。しかし、『ギネス・ブック』に載るような記録のなかには、逆に「より遅く」というものもある。昭和32年、当時22歳の東京都の三石隆信という青年は、自転車の遅乗りで1メートル動くのに5時間25分かけるという珍しい記録を出している。スポーツをするうえで、忍耐力や手首、足首の補強に最適のトレーニングだという。速さばかりでなく、遅さにおいても記録は成立する。

(7) 駄洒落のシニフィエとシニフィアン

言語学者ソシュールによると言葉には2つの要素があり、形、音というような言葉の生の素材に当たるものと、それによって指示される意味内容の側面とである。形、音の側面を「意味するもの」という意味で「シニフィアン」(能記)と呼び、内容の側面を「意味されるもの」という意味で「シニフィエ」(所記)という。洒落の効果は、シニフィアンを取り出し印象付ける点にある。コマーシャルで洒落を用いる利点は、商品名そのもの、シニフィアンとしての言葉を印象付ける点である。「ダイエットするつモリナガらもチョコレート

ト」というメッセージは、否定なしに音声を印象付ける。それゆえに、固有名詞を印象付けるには洒落が一番効果的であることになる。固有名詞は音・声以外に特徴が無いが、洒落では言葉の意味・内容よりも、言葉そのもの、音としての言葉が印象付けられるからである。フランスの精神分析学派のひとつ、ラカンに率いられる一派はシニフィアン（能記）のシニフィエ（所記）への優位を語っている。潜在意識を支配するのは、合理的な概念ではなくて、非合理的な素材としての言葉である。「十二日の木曜日」といわれても何の感覚も生まれませんが、その翌日、すなわち「十三日の金曜日」は耳にするとドッキリする。この二つの日取りは、感覚の中では連続していない。それは、不吉である要素が表現としての言葉としっかりつながっているからである。洒落が関係するのと同じ要素・シニフィアンである。駄洒落の蔭に潜在意識が働いている。

（８）うがちのジョーク

「うがち」・・・「普通には知られていない裏の事情を暴くこと。人情の機微など微妙な点を巧みに言い表すこと」

「うがち」は一種の真相暴露であり、内容よりも表現形式が重要である。

【例話 7】

気の弱そうな男が、昨夜の夫婦喧嘩の顛末を友人に報告している。

A「それで、家内が家を出て実家に行くっていうんだ。昨日は表が寒かっただろ。僕は箆の奥から家内のコートを出してやって、それから交通費を渡してやったんだよ。」

B「馬鹿だな、そんな風に甘くするから、君は奥さんになめられるんだ。出て行く女房に金を出してやる馬鹿はいないよ。」

A「でも、片道分にしといたんだ。」

「女房に甘い、コートばかりか金までも」と思わせておいて、実は離婚する気マンマンであった、というわけである。

笑いは観念を固定させるワク、あるいは固定観念そのものを壊すことによって起こる。常識には２種類あり、１つ目は、殺人はいけないとか、読み書き、経済活動で物を売買する場合に対価を支払うといった、いわばスポーツのルールとしての常識で２つ目は金魚は観賞するもの、オオカミは悪者といった先入観や固定概念という意味での常識である。第１の常識はできるだけ固定しなければならないが、第２の固定概念という意味での常識は常に破壊することを心がけたほうがよい。大人と子どもの差はここにあって大人は２つの常識に束縛されており、子どもはそれぞれ半面ずつの欠陥を持っている。第１の常識をわきまえながら第２の常識にとらわれないのが人間としての成熟であり、それを可能にするのがユーモア感覚である。

第2章 ジョークと意外性

笑いのエッセンスは、意外性にある。意外性こそ笑いを引き出す。意外であって、日常、人間を縛っている常識を破るからこそ、おかしいのだ。そして、人類の進歩をもたらした、新しいビジネスや、発見や、発明のあらゆるものが、意外なものなのだ。新しいものは、必ず意外性によって作られている。動物は自然と完全に一体となっているから、意外な発想を得ることができない。なぜなのか、人間だけが自然と一体になれないから、思い悩んだり、工夫しながら、文明を築いてきた。文明は意外なものである。意外性が凝縮しているのが、ジョークである。

【急げ！】

船は沈み始めていた。船長が叫んだ。

「誰かお祈りできるものはないか」

「私ができます」

一人の男が答えた。

「よし、それではお祈りしてくれ」

船長が言った。

「残りのものは救命具を付けろ。急げ、時間がないぞ」

【家族の心理】

患者が院長に、

「この病棟には4号室がちゃんとあるんですね」

「ええ、4は死に通ずるって、昔から嫌がられてたんですが・・・」

「先生は迷信を信じないわけですね」

「いえ、病人をそんな部屋に入れたっていう家族も意外と多いんですよ」

【同じこと】

看護婦が患者に念を押すように言った。

「今日お宅にお帰りになったら、ベッドの上で飛んだりはねたりしてください」

「それはまた、どうして？」

「さっき飲んでいただいたお薬、差し上げる前にビンを振るのを忘れてしまったんです」

【占い師】

「やや、これはなんと。奥さん、近くご主人が変死されるかもしれませんよ」

「ええ、それはわかっているの。それで、私はつかまるの、つかまらないの？」

第3章 笑いの分類

(1) 笑いの分類表

- | | | |
|--------------|-----------|----------------|
| 1 快の笑い | 2 社交上の笑い | 3 緊張緩和の笑い |
| ① 本能充足の笑い | ① 協調の笑い | ① 強い緊張が緩んだ時の笑い |
| ② 期待充足の笑い | ② 防御の笑い | ② 弱い緊張が緩んだ時の笑い |
| ③ 優越の笑い | ③ 攻撃の笑い | |
| ④ 不調和の笑い | ④ 価値無化の笑い | |
| ⑤ 価値逆転・低下の笑い | | |

上は笑いの分類表である。ベルグソンはその名著『笑い』の中で、笑いは「生命ある人間の心の中に機械的なこわばりが生じた結果」であるとしているし、カントは強い緊張が急に緩んだ時に笑いが起こると主張している。コントラストあるいは矛盾が笑いを呼ぶとの意見や、自分が優越していると感じたときに笑いが生まれるとの意見がある。いずれもその笑いについては深い洞察を含み、教えられることが多い。ここではそれぞれの笑いについて触れていく。

1 快の笑い

快の笑いというのは人間の笑いの最も基本的な形であると考えられる。こうした快の笑いは、成長に伴う精神機能の発達によりさまざまな形をとってあらわれるようになる。

① 本能充足の笑い

例えばコーヒーが「おいしい」とか、食事が「おいしかった」というときには常にほほえみが伴う。とくに「おなかいっぱい食べた」ときはそうであり、「ああ良く眠った」と快眠後に起きるときも、口元が緩んでいることが多い。これは本能充足を想像しての笑いである。

② 期待充足の笑い

入試に合格したことがわかったとき、野球で優勝が決まった時など、期待がかなった時に、多くは喜びの声とともに人は笑う。感情的に最も明るい笑いである。多くは笑い声やアクションを伴う大きな笑いである。この笑いの大きさは、その期待充足が長い苦労の後であった時や、急にやってきた時などに特に大きい。つまり笑いの大きさは喜びの大きさの反映である。

③ 優越の笑い

自分が長者番付の上位にランクインされている事を知ってニッコリしたり、相手の知らぬ裏話を知っていて、ニヤニヤしながら優越感をもって相手の話を聞くなどがその代表である。

④ 不調和の笑い

アメリカへ旅行した日本人がボストン行きの切符を買うため「ツーボストン (to Boston)」というと、窓口の係員が「ボストン2枚」と聞いて2枚の切符を出したため、「フォーボストン (for Boston)」と言い換えると、4枚の切符が出てきたので困って、「エート、エート…」とつぶやいていると8枚出てきた。

⑤ 価値逆転・低下の笑い

・ 『我輩は猫である』

本来人間より価値の低いと思われている猫が、人間を見下してその愚かさを笑うという点にこの笑いはある。

会社では部下に対してえらく威張っている部長が家庭に帰ると奥さんに頭が上がらないといった時に生じる笑いもこの例である。

2 社交上の笑い

人間は必ずしも快を感じなくても、社交上の必要から、つまり人間関係を円滑に行うための技術としてほほえみ、また声を出して笑う。そしてこの種の笑いとその頻度からいうと笑いの中でも最も高いと思われる。

① 協調の笑い

挨拶の笑いはその代表である。われわれは知人と出会ったとき、とくにその人とこれから何らかの交流を持とうとしている時は、ふつう挨拶を交し、「こんにちは」と笑いを浮かべる。しかし、それは快の表情とは言えず、大部分は社交上の配慮である。つまり、「私はこれからあなたと仲良くやっていきたい」というメッセージとしての笑いである。別れの時、「ではまた」と笑いを浮かべて挨拶するのも同様である。また握手は協調のしるしであるが、このときほほえみを浮かべることが大部分である。

私たちは「人につられて笑う」ことがよくある。つまり他人と笑いを共有することによって協調の雰囲気高めようとする。

② 防御の笑い

他人に自分の心の内面を知られたくないときなどに浮かべる笑みのことである。ジャパニーズ・スマイルの中に含まれ、やはり日本人に多いように思える。

③ 攻撃の笑い

人は「人に笑われる」ということを恐れ、笑われないように行動する面が大なり小なりあるが、この「人を笑う」笑いが攻撃の笑いである。風刺や噂話など。

④ 価値無化の笑い

目の前に起こった具合の悪い状態を「価値なきもの」にしよう、なかったものにしようという作用を持つ笑いが価値無化の笑いである。これらの笑いは、人間関係をスムーズに

するうえでは、まともにそこに至った理由を説明するよりも有効なことが多い。また必ずしも相手がいなくてもこの笑いは起こる。例えば電車にギリギリで乗り損ねた時がその代表例である。

3 緊張緩和の笑い

① 強い緊張が緩んだ時の笑い

敵機の爆撃を受け、じっと防空壕の中に潜んでいた兵隊が、敵機が去るとホッとしてニコリするとか、緊迫した対話が長時間続くとなんとなく微笑んでその緊張を緩めようとする事などがその代表であり、かなり意思の要素が強い。赤ん坊を少し投げ上げてそれを受け止めてやると、はじめは赤ん坊は緊張してもちろん笑わないが、繰り返しやってもらいうちに声を立てて笑うようになる。これは必ず受け止められると分かることにより起こる緊張緩和の笑いであるし、ジェットコースターに乗って大声で笑っている人々も、これと同じ笑いを笑っている。ただしこれには例外があり、極端に強い緊張を強いられた後は笑うよりは放心状態に陥ることがある。

② 弱い緊張が緩んだ時の笑い

与えられた刺激にまず少し驚き、次にすぐそれが無害、または愉快であることに気付いてホッとして安心、弛緩したことにより生じる笑いである。典型的な例としては、自分の知らない物事のいわれを聞かされ「へー、そうですか。ハッハッハッ」などがあげられる。

(2) 本当の感情を隠すための笑い

以上のように笑いには様々な形があるが、場合によっては文化的な取り決めに従って本当の感情を相手に悟られないようにしなければならない。このような時、私たちはどのように笑い顔を作ったり表情をコントロールするのだろうか。

アメリカの心理学者エクマンは「修飾」「調節」「偽装」の3つを上げている

「修飾」・・・ある感情の表出に注釈としてもうひとつの表情を付け加えることである。

たとえばテレビ番組でコメディアンがゲストを殴りつけるとき、殴りつけるときの攻撃的な表情の後ではほえんでみせたりする。つまり仕事であなたを攻撃するが私は本当はあなたにうらみがあるわけではないからマジにするなよと言っているのである。「協調の笑い」を笑っている。

「調節」・・・文字通り表情の強さを調節することである。

例えば実際に自分が感じた感情が強すぎる場合にはそのままの感情を表情に出さないでそれを少し弱めることが行われる。少しくらいなら笑ってもいいような場合でも、大笑いすれば相手を傷つけるかもしれないのである。

「偽装」

① 何も感じていないのにある感情をあらわす表情を作ること

とくにうれしくもないがよかったねと誰かに言われればほほえみを作ったりするのがこの例であり、これも「協調の笑い」になる。

② 実際にはある感情を感じているのに何も感じていないように見せる中性化

誉められて実際にはうれしいのに仲間の手前あまりうれしそうな顔をできないなどである。

③ 他の感情をあらわす表情によって実際に感じている感情を隠してしまう方法

実際には腹が立って仕方がないのに笑ってごまかしたりすること

一般的に、実際に感じているにもかかわらず何も感じていないように見せる中性化に比べ何か別の表情を作って本当の感情を隠してしまうほうがやさしい。この笑ってごまかす「価値無化の笑い」は日本人に多いように思われる。

* くすぐられて笑う

この笑いも弱い緊張とその緩和のためと思われる。くすぐりは自分でしてもおかしくないが、これは緊張そのものが起こらないためであり、初対面の人や嫌いな人にくすぐられても不安と驚きで強く緊張するのみで、その緩和がないから笑わない。適度に親しい人にくすぐられて初めて笑うのは、くすぐりによる緊張が相手に対する信頼のため適度に弛緩するためである。

その他の笑いの分類法として織田正吉氏は著書『笑いとユーモア』のなかで次のように分類している。

- 1 人を刺す笑い・・・ウィット
- 2 人を楽しませる笑い・・・コミック
- 3 人を救う笑い・・・ユーモア

また田中迪生氏は日本語の笑いを示す言葉として以下のように分類している。

- 听（きん）・・・大口を開けて笑う
- 呵（か）・・・息を吹きかけ笑う
- 哈（かい）・・・喜び笑う
- 咲（さく）・・・伸びやかに笑う
- 嗤（しし）・・・あざけり笑う
- 哂（しん）・・・馬鹿にして笑う

この章の最後として笑いの量について述べる。笑いは対人関係をスムーズにするからといって笑ってばかりではいいものではない。何事にも適量がいいのだ。たとえばある集団で冗談ばかり言っている人は決してリーダーにはなれない。集団のメンバーの信頼を勝ち取るには適度のジョークやユーモアをまじえながらもまじめな話もできなければならない。笑いの中にある「弛緩」の要素が信用の失墜、信頼感の喪失につながっていく。人間の行動に適度に必要な緊張と弛緩のリズムが会話にも必要なのである。仕事と休息、覚醒と睡眠などのように相対する状態が適当に交代して出現するのが健康に必要なように会話や演説を通じて聞き手に適当な緊張と弛緩のリズムを与えることができればよい語り手になれるようである。

第4章 精神生理学的考察

(1) 笑いの性差

コンピューターグラフィックスで九パターン笑顔の動画を作り、見た人が、どういう笑いに感じるかを調べた研究がある。その結果と冒頭の実験などを重ね合わせたところ「目と口が動き始めるタイミングが違くと、笑いに対する印象が変わる」ことを発見した。



コンピューターグラフィックスで作成した笑顔の一コマ

研究結果

口が目よりも先に動く・・・快の笑い

目と口がほぼ同時・・・社交の笑い

目が口よりも先に動く・・・不快の笑い

口が目よりも先に動くとき“快”の笑い、目と口がほぼ同時だと“社交”の笑い、目が口より先だと“不快”の笑いだと判断される。目が笑っていないから作り笑いというが、笑いを区別するのに大切なのは、むしろ口の動きで自然に笑うときは、ハッハッハ、と口が大きく、かつ先に動く。さらに、自然な笑いでは表情が変わってから〇・一九秒後に腹が動いたのに対し、作り笑いでは〇・六秒後と遅れることも分かった。

表情の性差について、追手門大学の吉川佐紀子氏が進めている研究を取り上げる。この実験は大学生の男女に様々な感情を表す表情をしてもらいその表情を撮影した。表してもらった感情は幸福、悲しみ、怒り、恐れ、驚き、嫌悪、軽蔑の7種類である。そして、撮影した後で、自分の表情がどれくらい上手くできたと思うかを自己評価してもらった。

幸福をあらわす表情として被験者が作ったのは、いわゆるほほえみと笑いである。そしてもっとも作りにくかったのは恐れや嫌悪といった普段あらわすことの少ない否定的な感情であった。さらに「幸福」の表情では女性の自己評価は男性に比べて高くないことがわかった。実際には女性は男性よりも上手く表情を作っている可能性があるのに自分では男性より上手く作れたとは評価していないのである。この結果は女性がほほえみに対して男性よりも厳しい判断基準を持っていることを表している。

女性が上手くほほえむということについて行った別の研究がある。

この研究は日本人の男女大学生を対象にして他者がいる状況と自分ひとりの状況とでどのようにほほえみの表情があらわれるかを調べた。被験者は一人ずつ部屋に入りほほえみや幸福感を引き起こす刺激を与えられた。このとき、「自分ひとり（私的）状況」に割り当てられた被験者の表情を隠しカメラに撮影した。一方、「他者（公的）状況」に割り当てられた被験者はあらかじめカメラで撮影することを告げられた。このようにして撮影されたビデオを分析した結果、女性の表情では自分ひとりの状況と比べると他者がいる状況の時にはほほえみがより強くあらわれている。男性は状況が変わっても表情にはほとんど差がない。つまり、女性は単にほほえみが作るのが上手いというだけではなく、状況に応じてほほえみを上手く使い分けているのである。

女性は男性に比べ全般的に感情を表情に出しやすく、他者を見つめたり他者に見つめられることが多く、表情から相手の感情を読み取る能力が優れている事がわかっている。これは女性が生まれながらにして備えている能力というより、相対的に社会的立場が弱いものが相対的に優位な相手の感情に敏感であり、相手の肯定的感情を持続させる必要があることを反映していると考えられている。

(2) 笑いの神経支配

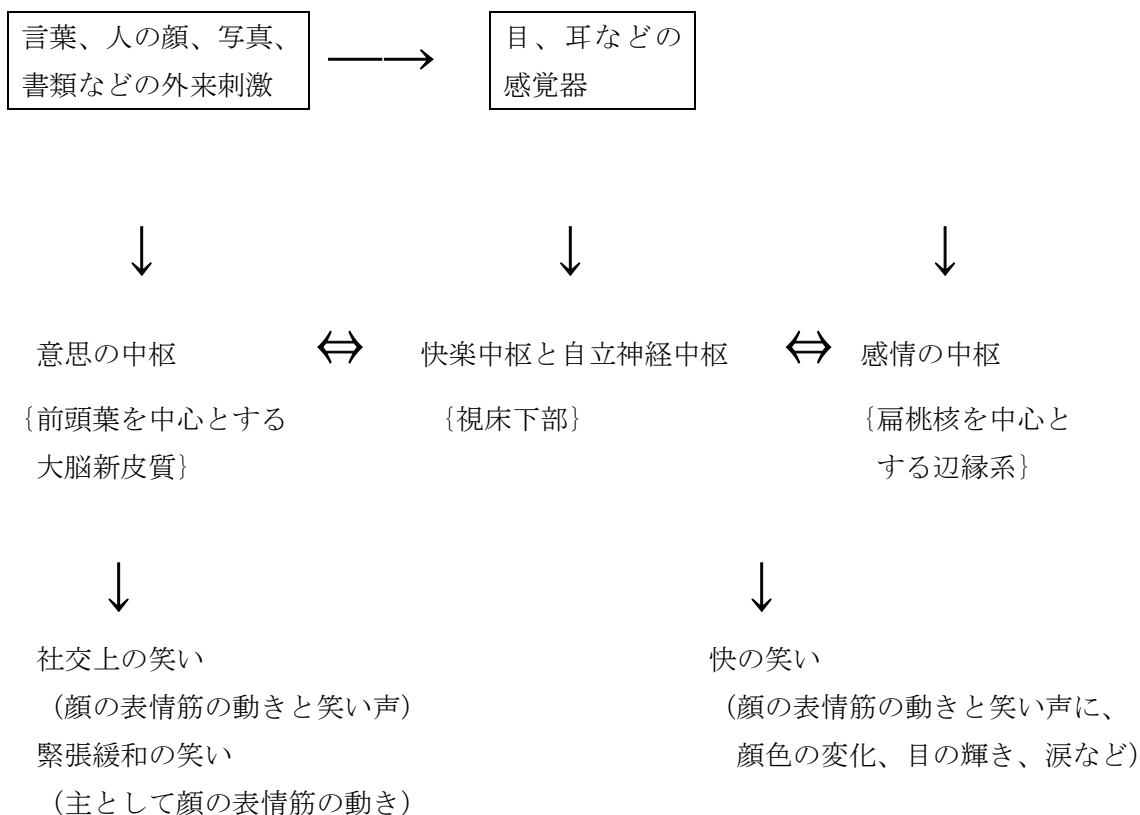
笑いの表現をつかさどる神経系に「笑うように」と命令を発する中枢がどこにあると考えられているのか。

現在、笑いの中枢となる脳の部位は3ヶ所あると推定されている。第1は動物にも見られる発生的に古い脳である辺縁系にある感情の中枢である。快、怒りなどの感情の源である。「快の笑い」はここから発生する。

第2の中枢は視床下部と呼ばれる、脳の真ん中、脳下垂体の上にある部分である。このあたりには快感中枢があると考えられ、「快の笑い」に深くかかわっている。第3の笑いの中枢は大脳新皮質である。ここは意思や理性の中枢であり、「社交上の笑い」はこの影響を大きく受ける。快の感情がなくても意思の力で笑顔を作ることもあるし、逆に快刺激のある時にも笑いを抑制したり、誇張したり、いろいろ修飾を行う。また過去の記憶と照合して新鮮味のない快刺激——たとえば聞き飽きたギャグをキャンセルするのもこの部位である。

笑いの生じる脳内メカニズム

第3章で述べた快の笑い、社交上の笑い、緊張緩和の笑いのそれぞれが生じる脳内メカニズムを図で示して見る。



会話やあいての表情、テレビの画面などの笑いの基となる刺激は目や耳などの感覚器を通して脳に伝えられる。脳にある笑いに関する3つの中枢に達した笑いの刺激はその中枢感で情報交換を行い、その結果「快の笑い」、「社交上の笑い」、「緊張緩和の笑い」のいずれかとなってあらわれるかまたは何もあらわれないつまり笑わないという結果をもたらす。

第5章 吉本興業

「大衆とともに」を合言葉に、明治45年の創業から、社会に貢献できるエンタテインメントビジネスを追求している。刻々と変化し、多様化する大衆のニーズを的確に捉え、常にその少し先を開拓しながら新鮮な切り口で答えてきた。そして伝統を重んじながらも、時代の変化に柔軟に対応し、新しい事業、新しいシステム、新しいソフトの発見と実現に果敢に挑戦して、自他ともに認める「オンリーワン・カンパニー」の確立を目指している。

吉本の基本的な考えのひとつにタレントは30日間壁に向かって稽古して1日舞台に出るよりも、下手でも舞台に立って初めて成長するとあり、劇場をいわば、タレントの卵を孵化させていくための装置と位置付けている。ここからたくさんの芸人が出てきたわけであるがそれでもテレビで活躍するのは5、60人、所属している650人の約1割である。

(1) 時代を捉える—吉本の軌跡—

企業そのものにも人間と同じように寿命がある。かつては30年で一回りといわれ、そこで企業の再生を図らなければならなかったが、最近では5年と言われている。それだけ早いものだから環境適応能力がないものは自滅すると言われる。そこで、時代を的確に捉えて成長してきた吉本の戦略を見ていく。吉本興業は昭和23年に株式会社になり、資本金は650万円だった。昭和39年までの売り上げは、1億円から6億円台で、毎年少しずつ伸びていたという程度だった。しかし、この年に日本中にボウリング・ブームが巻き起こり、吉本はいち早くブームに乗り、西日本最大のレーン数を誇る「ボウル吉本」をオープンした。これにより売り上げ10億円突破を成し遂げた。新しいことを積極的に取り込む吉本らしさが、発揮されたといえるだろう。そして次のターニング・ポイントは昭和45年の万国博覧会だった。この影響で昭和47年度決算で売り上げ高は20億円を突破した。さらにドル・ショックやオイル・ショック、日本列島改造論で時価高騰と高度経済成長に陰りが出始めた時に「お笑い」は人気を呼んだ。そのおかげで、昭和56年には売り上げ高は一挙に55億円を超えた。そしてバブル経済に突入する62年までの7年間は60億円前後で推移する。昭和60年には日経優良企業ランキングで収益性において上場企業1700社の中で9位にランクされた。そして、バブルに突入し平成2年には売り上げ高100億円を突破。この後も吉本は順調に実績を積み上げ、平成7年には200億円を

超えた。これは、従来のラジオ・テレビの放送メディアから音楽・出版、さらにビデオ・ゲーム等へのソフトの供給ということが、大きな要因としてあげられ、さらに劇場収入の増収などが上げられる。平成14年度3月期の決算では売り上げ高376億円で経常利益28億円となっている。

(2) 500億円産業へ

この目標を達成するためには既存の事業領域、単なる興行会社、単なるプロダクション事務にとどまっていたのでは、到底達成できない。というのも、日本のエンターテインメント産業、とりわけ、放送、音楽、映画そして演芸などの興行界の産業規模はだいたい6兆円といわれている。さらにそのなかで演芸業界のシェアは1%である。金額に直すと、だいたい350億円ぐらいしかない小さなマーケットである。そのためにはまずカテゴリーの開拓である。スポーツや2兆円規模といわれる音楽業界、そしてアジア進出。

いろいろな事業展開

- ・ 帝京平成大学との提携
- ・ アジア進出 中国、台湾、NY公演、アジアコメディー祭
- ・ 大型銭湯「極楽湯」との提携

(3) 吉本の報酬システム

- ・ 民放5局とのギャラ・ランク会議

↓

ノーランク制、時価制度

吉本興業には年収1億を超えるタレントは12人おり、もちろん社長よりも報酬は大きい。650人の中で日本人の平均年収を超えるのは上位50名ほどである。一方、その対極にはゼロもいる。仕事がないかぎり永遠にゼロである。タレントにとってハングリーは悪ではない。それをエネルギーにかえることができない者はそこで終わる。

吉本の報酬システムの優れたところは大きな報酬格差だけでなく、その報酬を決める評価を経営者が行わないことだ。吉本の経営陣はタレントの芸に口を出さない。のびのびと自由に芸を競わせて、自由に稼がせる。稼いだ金額に応じてタレントにギャラを支払う。報酬を決めるのは客。つまりマーケットである。

さいごに

笑いには、とてつもない、大きな効用がある。笑いは、頭脳を柔軟にしてくれる。笑いは格好な、頭の体操である。笑いは、頭の潤滑油だ。笑いを、決して軽々しく考えてはならない。地上の生物の中で、人間だけが文明を築いたのは、人間だけが笑う能力を持っていたからである。笑いは人の能力を高める。笑いこそ、人類にとって、究極の生命力であって来た。もし、人は笑いがなかったら、生きる勇気を得ただろうか。笑いは傷ついた人にとって癒しであり、勇気ある人にとって、ゆとりであって来た。病める人にとって、慰めだった。笑いは、生命力の源泉なのだ。神は人がつらい人生を渡ってゆくために、人に二つのものを与えた。笑いと、夢である。

笑いが健康に良いことが、科学的にも実証されている。笑いは精神を、いつでもはなやがせてくれる。笑いは、安上がりな健康食品だ。それに、笑いは格好な贈り物だ。笑顔ほど、すばらしいプレゼントはない。笑いという潤れることがない泉から大きな力を汲み取り、一緒に笑える仲間が増え、いつも笑いを分かち合える者は幸せである。

- 参考文献 『ジョークとトリック』 織田正吉 講談社現代新書 1983
『ジョークの哲学』 加藤尚武 講談社現代新書 1987
『人はなぜ笑うのか 笑いの精神生理学』 志水彰、角辻豊、中村真
講談社BLUE BACKS 1994
『ユーモア話術の本』 福田健 三笠書房 1998